

## 平成30年度 第2回 日本一の健康長寿県構想幡多地域推進協議会 議事録（概要）

日時：平成31年2月25日（月）  
18:00～19:10  
場所：幡多総合庁舎2階会議室

開 会 あいさつ：幡多福祉保健所長

委員紹介 事務所報告：委員21名中、20名出席（うち1名代理出席）  
事務局 9名

### 協議事項

#### 1 日本一の健康長寿県構想（第3期）について

(1) 働きざかりの健康づくりの推進、(3) 第3期 ver 4のポイント

#### 事務局説明

H30第2回働きざかりの健康づくり検討会結果をもとに説明

(H31.2.13 検討会開催、出席委員12名欠席2名)

たばこ対策、血管病対策、心の健康対策、数値目標は資料参照。

特定健診・がん検診の受診向上について、受診しやすい仕組みや各機関が連携した普及啓発を実施。特定健診受診率が年々低下しているが近年はやや頭打ち傾向。がん検診は全ての年代で受診率が低下しており、今後、担当者会などで受診率低下の原因、対策を検討予定。

たばこ対策は、子どもを受動喫煙から守るをサブテーマにさまざまな普及啓発に取り組んだ。喫煙率は国保の特定健診ではわずかに減少している。市町村保健師が特定健診受診者に対し細かに指導している成果も考えられる。事業所健診では喫煙率が増加している現状なので、今後も普及啓発を継続していく予定。禁煙外来利用者数も減少しており、禁煙外来につなぐ仕組み作りも必要と考えているが、管内の禁煙外来が非常に少ないため、医師会の協力も必要と感じている。

血管病対策は、幡多の生活習慣を改善するをサブテーマに、各機関が連携して普及啓発や健康パスポートを利用した健康推進や、高知県糖尿病性腎症の重症化予防プログラムに基づき取り組んできた。その結果、平成33年度末の高知県健康パスポート所有者数の目標値3500人は既に達成。血液検査などの数値改善は見られてないが運動習慣や定期的歯科健診、国保の男性喫煙率減少など改善の兆しが見えている。引き続き各機関が連携した情報共有、普及啓発が必要。

心の健康対策については検討会委員の所属団体における取り組みや事業所への

情報提供等に取り組んだ。

次年度の取り組みについても前述の四項目を柱に、今年度とほぼ同様に取り組んでいくことを確認。

今年度健康増進法が改正され、受動喫煙防止対策の徹底が幡多で必要なため、望まない受動喫煙を防ぐをサブテーマに取り組むこととした。

幡多地域の健康課題は一足とびには改善しないが、検討会協議をふまえた各団体との連携が進んでいる。特に幡多地域の健康課題が各委員の視点から見いだされたり、普及啓発の仕組みとして市町村広報だけでなく、高知県農業協同組合や商工会議所と連動した会員向け広報誌による普及啓発が進みつつある。

第3期日本一の健康長寿県構想のバージョン4について、壮年期死亡の改善は引き続きヘルシー高知家プロジェクトで取り組む。他には、事業所向けの高知版健康ハンドブック作成、健康パスポートのアプリのバージョンアップ、受動喫煙防止対策の強化。特定健診の受診率向上や特定保健指導実施率向上の強化。年齢層に応じた受診勧奨の強化、診療データを活用した保健指導、血管病の重症化予防強化のための地域での栄養・保健指導の充実、等。

健康増進法の改正内容として、今回の法改正で、第一種施設は敷地内禁煙。病院や学校は第一種施設となる。第二種施設は小規模な店等で20歳未満の立入禁止状態での喫煙が可能な施設。集会所なども二種。第三種は喫煙可能な施設の3つに分類される。学校や集会所等は注意が必要。

## **意見交換会**

### **A委員**

宿毛市において、子ども食堂を開催。平田小、山田小、東中に案内する際、文書の裏面に受動喫煙の害について掲載したところ、先生方より感謝いただいた。春休みにも開催予定でありその時も啓発を考えている。

### **B委員**

糖尿病重症化予防を一年間院内で取り組んできたが、なかなかスムーズにいかない。県看護協会や医師会でどれだけ浸透しているのかも把握し切れていない。専門職の中でも説明しづらいという声もあるので、もう少しわかりやすいものがあれば説明・浸透も進むかと思う。

### **事務局**

同様の意見が市町村からもある。関わる人が多いとうまく回らない等、本庁とも連携をとりながら解決につなげていきたい。

糖尿病の重症化予防は高知県の大きな課題。糖尿病の重症化により人工透析に到る患者も多い。きちんとした保健指導ができていれば重症化しなかったかもしれない。まずは予防、そして適切な医療につなぐ受けられる体系づくりに取り組んでいき

たい。

### **C委員**

働いている方は塩分が高い物を好む傾向にある。高齢者の方は病気を持っていたり病院にかかっている関係で割と薄味になれている傾向にある。生活習慣は大事。子供の時からの習慣がとても大切だと思う。

### **事務局**

子供の頃からのよりよい生活習慣の構築にむけ、ヘルスマイトにも学校に入り指導いただいている。健康づくり普及啓発が大事。JA、商工会等の広報誌も活用し啓発している。

### **D委員**

在宅患者の多くが調理済の食品を買うことが多く、味は濃くなる、カロリーも高い、野菜類が少ない、偏りがあるなど、問題は多々ある。しかし、自分で調理できない方に味薄めで食べる工夫の話をするが現実には難しい。

### **事務局**

地域のお惣菜なども課題があり昨年度までは地域の量販店などに協力してもらい、減塩のお惣菜推進など取り組んだが、現状は、あまりすすんでいない。

## (2) 地域包括ケアシステムの推進、(3) 第3期 v e r 4 のポイント

### **事務局説明**

H30第2回地域包括ケア体制整備検討会結果をもとに説明

(H31.2.13 検討会開催、出席委員11名欠席4名)

今年度からの第7期介護保険事業計画で、保険者機能強化推進交付金(インセンティブ)が始まり、市町村担当は評価基準等で悩んでいたこともあり、県担当と管内市町村担当の意見交換に取り組んだ。

地域包括ケア推進の主要5項目について、管内では、項目毎に関係者意見交換をふまえ研修等の事業に反映。また、管内3市の医療介護推進協議会事務局と連携して同一講師による講演会を開催することで、経費抑制や講師日程確保、同じ講演を沢山の人が聞く機会につながった。

項目別の主な動きとして、介護予防について、黒潮町・四万十市・宿毛市の3市町での住民講演会の中で、短期集中型デイサービス事業の成果を報告したところ、こういう取り組みを進めてほしいという声が出ている。

生活支援体制推進では、須崎福祉保健所管内5市町も交えた生活支援コーディネーター情報交換会で、お互いの取り組みを参考にもらった。

介護予防も自助互助も取り組み成果にスポットを当てることで住民のやる気を引き出すことにつながる。例えば、土佐清水市での地域の取り組み発表会では、近隣地区の活動を知ることが刺激になっていると感じた。

地域ケア会議の充実強化について、カンファレンスと地域ケア会議は、一番身近な多職種連携協議の場と言われている。今年度、大月町では、参加して良かったと思えるケア会議を目指して国事業にエントリーした。これを契機に、もう一度地域ケア会議の向上に努めていこうという他市町村の声もふまえ、3月に管内の地域ケア会議メンバーを対象にした研修を予定。

認知症について、今年度は認知症疾患医療センター主催により、講演会を2回、初期集中チーム員対象の研修会を2回開催。会議の開催数が取り組み評価指標となり易いが、会を開かずとも適切な医療につながる仕組みが理想であり、事例検討会により対応策を蓄積していく場として有効。

在宅医療介護連携推進について、退院支援事業を幡多けんみん病院が取り組む中、管内の関係機関も多数参加。退院後の生活を見据えたカンファレンスの在り方等を研修してきた。3月14日に県民文化ホールで退院支援事業の報告会予定。

入退院の手引きは、平成31年1月1日より試験運用、4月1日運用開始予定。作成が目的では無く手引きを活用した多職種連携に在り方等の継続協議の場として3月2日に多職種研修を予定。今後も継続開催予定。

次年度の方向性として、関係多職種の連携推進については合同開催や日程をあわせた講師招聘等による経費抑制や事業効率化をはかる。住民主体の活動においては取組報告会や好事例の発信等により住民のやる気を引き出すことを取り組みの基本としたい。

高知県版地域包括ケアシステム構築について、平成30年度より、各保健所管内の複数市町村を1ブロック単位として、毎年1ブロックずつ、各ブロック2年間で医療介護福祉連携推進に取り組む予定。幡多地域においては、今年度、四万十市黒潮町ブロックに着手、関係機関から資料のとおりメンバーを選出し、8月1日の第1回では課題抽出、10月2日の第2回では課題まとめと取り組むべきことの整理、2月20日の第3回では進捗確認と具体的な取り組みを協議した。

今年度のブロック協議体の取り組み詳細は資料を参照。ブロック毎では無く幡多地域共通課題、例えば、医療・介護・福祉のそれぞれの職種間の連携に対する意識のずれは無い？相互理解の研修の必要性は？病院内職員が共通の退院生活をイメージすることが大事では無い？等、全体として取り組むことも想定しながら協議中。

ブロック協議体参加の民間医療機関には、地域包括ケアにかかる研修も実施いただいた。今後さらに協議体での意見をふまえ、訪問看護の活用等による在宅生活支援についての研修も準備中。

退院支援事業について、これまでの取り組みを管内に波及させていくための研修等について高知県立大と協議中。

健康づくり支援薬局、お薬プロジェクトについては、県アンケート結果等を精査しながら取り組む予定。

地域医療連携推進法人について、介護事業所、医療機関等の大規模化・連携は、体制維持・強化のひとつの手法として、昨年11月の東京での先行事例講演会への参加や、管内医療機関での法人立ち上げについての協議、12月の幡多地区有床病院の事務長連絡会等を開催。今後は、四万十市、宿毛市、土佐清水市の各ブロック毎で協議する必要がある等の意見をいただいている。

口腔ケアについて、在宅歯科連携室の定例会で共有してきた。在宅歯科連携室は口腔ケアに対する病院や介護施設職員の意識向上を課題ととらえ、そうした機関における指導等を行っていただいている。

はたまるネットについて、今後どうなるかなどの質問もあり、情報収集等を行った。なおこれに関して、3月6日幡多医師会館でICTシンポジウムが開催予定。

次年度の宿毛市・大月町・三原村ブロック協議体立ち上げにむけ、3月に当該3市町村と構成メンバーや協議の方向性等について意見交換の予定。

次年度予算案について、はたまるネット等のICT情報共有システムについては、土佐清水市、四万十市、黒潮町はじめ、他圏域への展開も見据えた支援の経費が計上されている。

重点項目としては、ICT推進、地域包括ケアセンターの機能強化、小規模多機能型施設の整備等。また、ネットワークの核となる地域包括支援センターの機能強化としてアドバイザー派遣等の支援、具体的にはコンサルタント委託により包括支援センターへの指導を年3回程度、それに加えて、個別に講師派遣で指導を行う方法も検討中。出来ることから進めていければと思っている。具体的な支援内容は、詳細が判明すれば担当課長や担当に説明の予定。

## **意見交換会**

### **E委員**

各地域の見守り・支え合いの取り組み発表会の中で、ある地区のアンケートでゴミ出しは心配ないという住民の声。住民は頑張りすぎるというか、しんどいと言っているよ。という雰囲気作りが大事では。サロンに参加しない人に配食サービスで入ると喜んでくれる。モーニングに人が集まる。その中からコミュニケーションが生まれ、WINWINの関係が出来る好事例を発信していきたい。

### **F委員**

退院支援事業の取り組みの中で、病院は敷居が高いというケアマネージャーの言葉に衝撃を受け、介護側と対話する機会を増やすようにしており、少しずつ関係が近くなっているのではと思っている。

## **2 その他**

- ・特になし

閉 会